日本芸術文化振興基金助成 TOA 株式会社協賛

見て 聴いて 参加して
シリーズ Vol.02

投影と踏襲

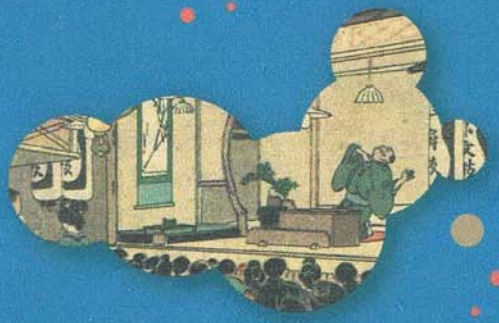
～文楽と落語・舞踏のあやしい関係～

2012年3月17日(土)

第一部　上方の芸　落語と文楽のあやしい関係　12：30～14：45
第二部　舞踏の源流・文楽　15：00～17：00

神戸ポートアイランド・ジーベックホール
Tel：078・303・5600／URL：http://www.xebec.co.jp

● 出演／豊竹英大夫　鶴澤清友　桐竹勘十郎　桂雀松　由良部正美ほか
● 前売／第一部 or 第二部　指定席 4,000 円、自由席 3,000 円　学生 2,000 円
前売／第一部＋第二部通し割引 指定席 6,500 円、自由席 5,500 円、学生 3,500 円
● 主催・お問い合わせ・チケット販売
パフォーマンス イン ミュージアム実行委員会
Tel:078・822・2545



Support by TOA

見て 聴いて 参加して
シリーズ Vol.02

投影と踏襲

～文楽と落語・舞踏のあやしい関係～

主催：パフォーマンス イン ミュージアム実行委員会
助成：日本芸術文化振興基金
協賛：TOA 株式会社
制作協力：株式会社ジーベック
協賛：医療法人イキイキ会、株式会社スパイラル
認定：企業メセナ協議会
後援：関西元気文化圏・見巧者
協力：国立文楽劇場、慶應義塾大学アート・センター、由良部屋、NPO法人 DANCE BOX、花外楼

【チケット販売・お問い合わせ】
●チケットぴあ予約電話
0570・02・9999
第一部 or 第二部 1 回券 Pコード417-705
第一部＋第二部通し券 Pコード786-3545
@ チケットぴあ http://pia.jp/t
（PC・携帯電話共通）
取り扱い店舗：チケットぴあ店舗／サークル K・サンクス／セブンーイレブン
●ジーベックカフェ（電話予約）平日 10:00～17:00　078・303・5604
●パフォーマンス　イン　ミュージアム実行委員会（バンノ）
Tel&Fax０７８・８２２・２５４５
e-mail bankumi@pearl.ocn.ne.jp
（メールの方は件名「文楽の件」と明記してください）

岡山公演＝2012年3月10 日（土）
於：岡山・月の舞台
URL:http://www.spiralring.jp/tukinobutai
時間・内容・料金は同様。能の稽古舞台ならでは、の音響の良さで浄瑠璃に包まれ、息づかいが聞こえる近さで所作の細部までご覧いただけます。講師は森下隆（慶應義塾大学アート・センター土方巽アーカイヴ運営）。
チケットぴあ予約電話：0570・02・9999
第一部 or 第二部 1 回券 Pコード417-677
第一部＋第二部通し券 Pコード786-353
月の舞台 Tel：０８６・２２２・６３６７

プログラム

第一部　上方の芸　落語と文楽のあやしい関係 12：30～14：45

関連のある落語と文楽を一緒に、という試みの4回目。前3回にご出演いただきました故桂吉朝師の七回忌の今年度に再演することになり感無量です。

○参加してコーナー／ワークショップ 12：30～13：15
落語家体験　桂　雀松
文楽体験　大きな声で語ってみよう！　豊竹希大夫
三味線の様々な音を聴き取ろう！　鶴澤清公

○公演１３：３０～１４：４５
●落語「どうらんの幸助」桂　雀松
●文楽「桂川連理柵　帯屋の段」
浄瑠璃／豊竹英大夫　三味線／鶴澤清友　人形（長吉）／桐竹勘十郎ほか

東西の落語には歌舞伎に題材をとった噺がありますが、文楽の噺は上方落語だけです。子どもから高齢者までそらんじてという「お半長（通称。お半、長右衛門の略）」は、嫁姑の確執、跡継ぎ争い、不倫…まるで韓国ドラマ。帯屋（略称）は、旦那さんの危機を奥さんが機転を効かせて切り抜けますが、人間では不可能な演出で笑えるシーン（チャリ場）があり、その後の悲話を引き立たせます。

第二部　舞踏の源流・文楽 15：00～17：00

○参加してコーナー／講演 15：00～15：30
建畠　哲（詩人・京都市立芸術大学学長）「土方巽と芸術家たち」

○公演 15：45～17：00
●創作と新演出による「舞踏と文楽のコラボレーション」
「病める舞姫」（土方巽著）より＆人形なしで演じる人形遣いのパフォーマンス
作曲・演奏／豊竹英大夫（大夫）、鶴澤清友（三味線）
振付・出演／由良部正美（舞踏家）、桐竹勘十郎（人形遣い）ほか

声を感じる、風土がしみてくる…ような土方のコトバ。文楽の人形をもたない人形遣いの身体表現の妖しさ…。ファッションショーの舞台のように客席中央に橋懸かりを設営、劇場では見ることのできない角度から人形遣いと舞踏家の動きをご覧いただけます。

●文楽「日高川入相花王　渡し場の段」
浄瑠璃／豊竹英大夫　三味線／鶴澤清友　鶴澤清公　人形／桐竹勘十郎ほか

人形遣いの多種多様な表現方法がたのしめる演目。愛する人が隠れた鐘を恋の炎で焼き尽くす「道成寺」の文楽バージョン、大蛇となって娘が川を渡るシーン。

文化庁の抜穴

平成 17 年 11 月号

存在の源

非常に興味深い公演を観た。『舞踏の源流文楽』と題して、日本の伝統芸能である文楽と、国際的に評価されている日本の現代の「舞踏」とのコラボレーションが、九月二六日、東京ミュージックカレッジのライブホールにおいて行われた。すべての演目が興味深かったが、特に感心したのは、文楽の人形遣いの人たちが人形なしで舞台上で演技する場面であった。三人の人形遣いが人形を持たずに、人形を演技させているように動く。見ていると何だか現代舞踊を見ているようにさえ感じる。「おどり」は体のみではなく心もおどるし、人間の生命力の源である。こんな公演を見ると、人間は人生劇場で演技しているつもりでも、ほんとうは普通は目に見えない深いはたらきによって、その存在を支えられているのではないかと思う。まさに人間存在の源に触れる感じで深く感動した。このような公演をぜひ外国でもしていただきたいものである。

故・河合隼雄（文化庁前長官）

プロフィール

●オリジナル文／土方巽（ひじかた・たつみ　舞踏家）
舞踏の創始者。1928年秋田に生まれる。18歳でモダンダンスを始める。上京後、1949年大野一雄舞踊公演に衝撃を受ける。1958年土方巽の名でヨネヤマママコ、大野一雄と共演。1959年「禁色」を発表、舞踊界に衝撃を与える。三島由紀夫、細江英公、渋澤龍彦らとの交流が始まる。主な作品に「あんま」「バラ色ダンス」「肉体の反乱」「疱瘡譚」「静かな家」などがある。1973年の「大駱駝艦・陽物神譚（特別出演）」を最後に自ら踊ることはなく、1974年にアスベスト館に劇場を開設、ここを拠点に振付・演出に専念し、「舞踏譜の舞踏」を確立する。細江英公による写真集「鎌鼬」、著書に「犬の静脈に嫉妬することから」「病める舞姫」「美貌の青空（遺文集）」「土方巽全集」などがある。1986年死去、享年57歳。

●作曲・演奏／鶴澤清友（つるさわ・せいとも　文楽三味線）
二世。本名・大沢弘宣。1947年神奈川県生まれ。1971年二世鶴澤道八に入門し、師の初名を名のる。1972年国立劇場で初舞台。1982年現・鶴澤清治の門下となる。1979 年文楽協会賞、1987 年因協会奨励賞など受賞。大阪市在住。

●落語／桂雀松（かつら・じゃくまつ 上方落語）
本名・片岡尚人、通称・あたまっちゃん（枝雀師匠が命名）。1956年神戸生まれ。1975年桂枝雀のもとに弟子入り、南光、雀三郎につぐ三番弟子。気象予報士の資格をもち、タップダンス・長唄・玉すだれが特技だが、浄瑠璃（英大夫社中）も。1988年NHK 新人演芸コンクール優秀賞、1989年同大賞、1994年国立演芸場花形演芸会銀賞、1996年大阪舞台芸術奨励賞、2006年文化庁芸術演芸部門優秀賞を受賞。主な会は雀松向上委員会・神戸らくごビレッジ。大阪府富田林市在住。

●お話／建畠哲（たてはた・あきら　詩人・京都市立芸術大学学長）
1947 年京都生まれ。1972 年に早稲田大学文学部卒業後、国立国際美術館研究官、多摩美術大学教授を経て、2005～2010 年国立国際美術館館長。1990年・1993年のヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナー、横浜トリエンナーレ 2001 のアーティスティック・ディレクターなどを務める。詩人としても活躍し、1991 年に歴程新鋭賞、2005 年に高見順賞を受賞。

●作曲・演奏／豊竹 英大夫（とよたけ・はなふさだゆう 文楽大夫）
三世。本名・林雄治。1947 年大阪生まれ。1967 年三世竹本春子大夫に入門。祖父である十世豊竹若大夫（人間国宝）の幼名、英大夫を名のる。1968 年大阪毎日ホールにて初舞台。1969 年四世竹本越路大夫（人間国宝）の門下になる。初舞台以降年4回の大阪公演、年4回の東京公演、その他の国内地方巡業、海外公演に出演。1971 年国立劇場奨励賞。1978 年文楽協会賞。1994 年国立劇場文楽奨励賞。2003 年国立劇場文楽優秀賞など受賞。2004 年ユネスコ世界遺産認定記念文楽パリ公演。2005 年文化庁主催「日韓友情年 2005 文楽とパンソリ」ほか。大阪市在住。

●演出・身体表現／桐竹勘十郎（きりたけ・かんじゅうろう 文楽人形遣い）
三世。本名・宮永豊美。1953年大阪生まれ。父は二世桐竹勘十郎。1967年現・吉田簑助に師事し、吉田簑太郎を名のり、1968年大阪毎日ホールで初舞台。2003年三世勘十郎を襲名。1973年国立劇場奨励賞、1975年文楽協会賞、1984 年国立劇場文楽賞奨励賞、1986 年咲くやこの花賞、1988 年大阪府民劇場奨励賞、1995年芸術選奨文部大臣新人賞、1999 年松尾芸能賞優勝賞、2008 年芸術選奨文部科学大臣賞・紫綬褒章受章、2010年日本芸術院賞受賞。大阪市在住。

●演出・身体表現／由良部正美（ゆらべ・まさみ 舞踏家）
1982年、舞踏グループ東方夜総会を退会後、ソロダンサー、振付け・演出家として活動を始める。たくさんのダンス作品、コラボレーション作品を発表。2000 年ヨーロッパ最大といわれるリヨン・ビエンナーレ・ダンスフェスティバルのオープニングに招待されたのをはじめ、メルボルン・ダンスフェスティバル（2002年）、韓国のテジュンとテグでのダンスフェスティバル（2005年）、ポルトガルの SUL-X ダンスフェスティバル（2006年）等海外での招待公演も数多い。又、舞踏の黎明期を築いてきた笠井叡氏、大野慶人氏を 2005 年、2006 年と招き、ワークショップ・トークセッション・パフォーマンスが一体となった「身体の裏側Ⅰ」「身体の裏側Ⅱ」を企画。谷川俊太郎（詩）・谷川賢作（ピアノ）との共演等その活動は幅広い。長年舞踏クラスやワークショップを行いながら、他の身体技法や身体観との相対化の中で、新たな舞踏の血脈を辿っている。2008 年7月から、京都・西陣にてスペースALS－D（http://homepage3.nifty.com/spacealsd/）を始動、新たな展開を迎えている。

○企画・制作・舞台美術／伴野久美子（ばんの・くみこ　現代美術家）
1955 年愛媛県生まれ。1978 年甲南大学経営学部卒業、元永定正氏に師事。現代日本美術展、朝日現代クラフト展ほか入選多数。毎年個展を開催。1993 年から舞台プロデュースを手がける。01 年「源流を着る　舞う　奏でる」、05 年「古典の新芽」・「なかなか　あえない芸能」、07 年「見て　聴いて　参加して」シリーズを開始。大阪芸術大学元非常勤講師、（株）倉敷製帽客員デザイナー。